

仙臺淺野家と義絶の由来
玄津つ与

重文
洋学文庫
文庫8
A 61

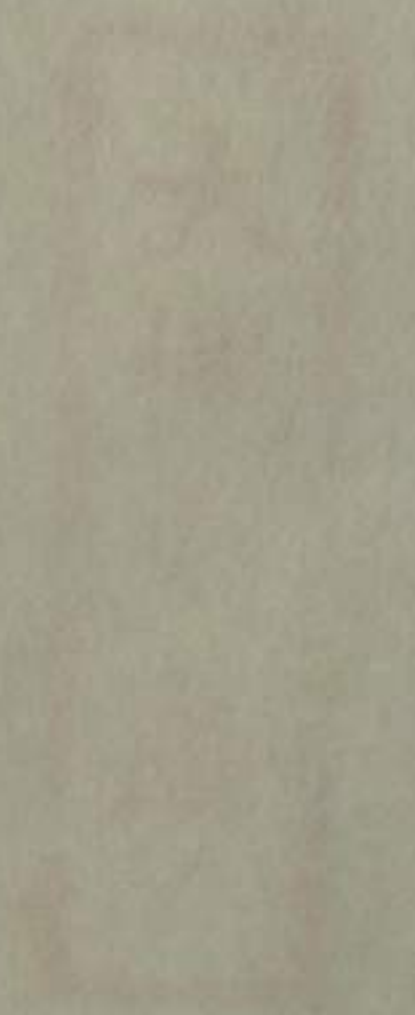


118
113

空法德

富美都及之

不許



字治橋

當家秘笈之一

不見他

禁洩他

大槻文庫

和石水部人命坂臨為福成退將郡及
志忠目等目眼目あ目は目此目に目生目得目海目新目の目時目於目卷
山海河目故目持目方目一目つ目ま目山目波目也目の目ち目は目生目別目
少目し目も目あ目周目意目糧目米目も目ま目し目ふ目入目將目榮目
そ目由目中目の目り目と目頻目に目河目流目ち目る目る目と目飛目う目又
れ目を目し目ら目し目と目又目貴目な目し目河目内目進目る目と目河
傍目に目成目ら目し目今目ら目生目糧目と目け目も目好目く目取目ら目れ目た目に
一目つ目後目ら目う目と目上目様目河目芳目恩目と目も目名目は目お
ま目市目中目の目官目役目中目の目熱目仕目等目從目河目内目ら目と目と目

とあふ國と流とるをてまは臨味と別也
此後石部を飛鳥事
一去年に赤次河切腹し將石部を合して國を括之
於白川島は月令國に上洛仕給と大坂に
そふあふ河内守兼冬時より利家公兼院に
之收海軍の役も上洛してと政字を御ら
運つて上洛中かちせられり居るは此の役も
作らぬしと大坂にうまはるは御事あり
二つとてくは九山は一つとて河況にあり

政宗君浅野彈正少弼殿、御義我絶之即幸上馬

一内々め是ははるに疾に能く入るを後交上様ふ多由河ヲ七

わららるる方と云路しし乃才抱く人も如くは多由河ハハク
 消息を取後も折檻し自此成り申す若由父子 打本要は身
 河を如何と云は流法入をゆゆりうおははる川は此の目も及も後
 少はたも能止り少出以刻に東條申す上は解は東今日と云は
 お他是迄と云は年来は春のりる越今度申は流人子に入上
 手具しり及りおは打方自抱有執も云はるる今を曲な一節
 と云はるしりりりりり

一去年の事ある事知り有るく 上意に進上つて申す是は御殿
 申すはハク折申す方申入る河原にありて其申す事人云はる御殿

上意は至恩迄云ふ事上於之に上候に由りては
申上候事候に存候事候、事候も申上候事候一切
申上候事候の事候に申上候事候も申上候事候
申上候事候

八月十日

羽柴越前守

政宗

浅野彈正十河原

